第 2018-39 号

恵みと真理のニュース

2018 年 9 月の五次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

主は私と共におられ助けてくださって感謝します。

“主はわたしの道を導かれる。主はわたしの道を導かれる。御言葉を信じて従順する時、わたしの道を導いてくださる。”“主に委ねます。主に委ねます。わたしの人生の慰めと真の平和を下さる主を委ねます。”

証を書きながら過去を振り返って見るとおのずと神様に感謝と賛美をするようになり、一方、わたしの心が限りなく痛いです。
私は４１年前、結婚して義母を仕えて甥を育てました。旦那と息子と共に楽しく行きながら、経済的に豊かな人生ではなかったですがある金持ちがうらやむことなく平安で幸せでした。ところが、旦那が退職して事業を始めてから忙しく生活するうちに浮気をしながら家庭の平和が壊れてしまいました。
旦那は家の大小事に気を使わず一日も平安な日がなかったです。その中でもわたしは家庭を守って義母と子供達を世話するため頑張りました。しかし　日増しに苦しい生活の中で私は不幸な沼に落ちいて、私が夢をみた幸せは逃げてしまいました。　浮気をする旦那のせいで涙を流している母をみる子供達の心はどうだったでしょう。いくら不安で大変だったのでしょう。
そうするうちに、ある日、隣の家に住む人が私を伝道しました。周りに頼る人が一人もいない時、誰でもわたしの慰めと力にならなかった時、私は迷いもなく教会をついて行きました。聖殿に入って座る瞬間、涙を流しました。その後、熱心に教会に通いました。説教を聴いて聖書を学びながら神様に対してどんな方なのか知るようになり、神様が私をとても愛してくださってわたしの隣で共にしておられるのを知るようになりました。
まもなくソウルからアンヤンに引越しました。旦那は相変わらず浮気をしていました。私は裏切られた失望して結局、離婚しました。息子を連れてきて実家に息子を預けて働きました。工場で昼夜交代で働きました。ところが、１９９２年に、首区域長の伝道と助けで恵と真理教会に通うようになりました。当会長牧師の尊い説教を聴きながら大きい慰めを受けて、明日の希望を持って熱心に暮らしました。そんな私に、主はいつも共にしておられて、さまざまな苦難の中でも救ってくださり、生きる力と能力を与えてくださいました。
神様はわたしの祈りを聞いてくださり、息子が苦難の中でよく育つように見守ってくださいました。わたしの唯一の希望なった息子はどんな過ちもしなくて良く育てられ、高校を卒業をして大学に入って誠実に勉強しました。そして、大学生活を終える頃、教授の推薦である製薬会社に入社しました。わたしの人生の理由になりやりがいになった息子は職場生活をしながら結婚して家庭も作って二人の息子の父にもなりました。
息子が成長してある程度心と生活に余裕が出来て私は家を買うため神様の助けを求めて祈りました。祈りをするうちに私が借りて住んでいた家が売り出されました。でも、家を買うため私と息子にあるお金を集めて７千万ウォンが足りなかったです。一家親戚の中で一番仲良く過ごしていた甥に頼みましたが、一気に断られました。期待と希望が崩れてしまい、私と息子は言葉で表現できないほど裏切られた気がしました。相場より安い価額でこの家を所有する機会なのに時間がなくお金も探すところがなかったです。従って、私は今まで私がいつも委ねて私に多くの力を下さった神様、わたしの祈りを聞いてくださるとき助ける恵を与えてくださった神様に積極的に祈りました。力を尽くして祈りをするうちに心が平安になり、大胆になってわたしの唇では神様に向かって感謝と賛美が出ました。神様が私と共におられ、私を助けてくださることを確信して賛美してまた、賛美しました。
良い神様、私たちの神様は私と息子のため奇異な方法で摂理してくださって、助けてくださいました。息子が通う製薬会社が新薬開発に成功して大きい利益を得るようになって、会社でその利益の一部を職員達にまんべんなく株式で配る事が起こりました。息子が受けた株を現金に計算したがら正確に家を買うため足りない７千万ウォンになりました。ハレルヤ！
全能なる神様が働いておられるのを感じるようになって感動を受け感謝しました。本当に驚くな神様の摂理でした。私は何日ぶりにそのお金ですべてが解決して家を契約しました。私は神様の御言葉が思い出しました。“ 人間の心は自分の道を計画する。主が一歩一歩を備えてくださる。”（箴言１６：９）ハレルヤ！
私はこのように買った家で息子夫婦と二人の孫達とともに幸せに生活しています。７０歳になった今、過去を振り返って見ると神様に感謝して天国を希望して常に主に感謝しながら生きています。主が呼ばれるその日まで神様の恵みを忘れなく神様が与えてくださった区域長の職分をまじめで忠誠を尽くします。
私が神様を畏れて委ねて愛する人生を生きる間、今まで私を哀れんでくださり、愛してくださった神様、私が祈ったすべてを答えてくださった神様の恵みと愛に感謝しながら、すべての栄光を神様に捧げます。
“ 苦しむ人、貧しい人は水を求めても得ず／渇きに舌は干上がる。主であるわたしが彼らに答えよう。イスラエルの神であるわたしは彼らを見捨てない。”（イザヤ４１：１７）

［信仰コラム］　お祈りする時と行動する時

”主は モ ― セ に 言われた, 「あなたは, なぜわたしにむかって 叫ぶのか. イスラエル の 人々に 語って 彼らを 進み 行かせなさい... ”（出エジプト記 14:15, 16）

お祈りをしない信者はいません。しかし、お祈りすることに対する信者達の態度や見解が全て同じくはないです。お祈りする時間に却って熱心に働くべきだと主張する信者がいる反面、処理すべきことが大きくて多いほどお祈りすることに力を尽くすべきだと主張する人がいます。
このような二つの主張について聖書がどのように答えているかを調べてみましょう。
第一は、私達がお祈り以外には別にすることがない場合を調べてみます。
ユダヤ国に偶像崇拝と道徳的な堕落と社会的な不正腐敗が蔓延るとエレミヤは堕落した民に神様の怒りと審判を警告しながら悔い改めを促しました。彼は敬虔な信仰と格別な愛国心の所有者として同族を愛する熱情に捕らえられた中で予言者としての使役を遂行していきました。全ての地域、各界各層の人から逼迫を受けて王の命令で逮捕されて警備対の庭に囲まれてしまったエレミヤが”神様、私が出ていって叫ぶべきであるがこのような警備対の庭に囲まれているので途方に暮れています。どうしましょうか？”と叫ぶと神様がこのように言われました。”...わたしに 呼び 求めよ, そうすれば, わたしはあなたに 答える. そしてあなたの 知らない 大きな 隠されている 事を, あなたに 示す”。活動が不可能な時にはお祈りだけしなさいということです。そうすると神様が働いてくださいます。
第二は、お祈りする一方で行動しなければならない場合を調べてみましょう。
エジプトから解放されたイスラエル子孫がこれ以上進行できない紅海に至るとモーセは神様の指示通りにイスラエル子孫をその海に陣を張るようにしました。神様は御自分がどのような腹案を持たれているかをお話ししてくださいました。神様の御言葉のようにパロと彼の臣下達が心を変えて特別に選抜された戦車 600 台と馬兵と歩兵を連れて追撃してくると民達はとても恐れてモーセを恨みました。しかしモーセは躊躇わずに民達に断固として話しました。”あなたがたは 恐れてはならない. かたく 立って, 主がきょう, あなたがたのためになされる 救を 見なさい. きょう, あなたがたは エジプト びとを 見るが, もはや 永久に, 二度と 彼らを 見ないであろう...。”モーセがこのような態度を取った理由は神様が予告なさった御言葉を肝に銘じたからです。
この紅海の奇跡事件で見過ごしてはならない重要な教訓があります。恐れに捕まえられて叫ぶイスラエルの民と疾風怒涛のように迫ってくるエジプトの戦車と馬兵を見ながらモーセが叫んでお祈りすると神様がモーセに”あなたは, なぜわたしにむかって 叫ぶのか. イスラエル の 人¿に 語って 彼らを 進み 行かせなさい。あなたはつえを 上げ, 手を 海の 上にさし伸べてそれを 分け...”と言われました。今はお祈りしている時ではなく行動する時だと言われたのです。
他の例を調べてみます。
ペルシャのアハシュエロス王の時にあったことです。王の信任を受けた大臣ハマンが王にユダヤ民族を讒訴して、ユダヤ人を尽滅しなさいという王の詔書がスサを始め、ペルシャ帝国各所に続々と伝えられました。モルデカイとユダヤ人は断食しながら大声痛哭しました。モルデカイが王侯エステルに王に進んでいきユダヤ民族のために訴えるように頼むとエステルは自分の現在処置としては王に進むことができない立場を伝えました。するとモルデカイはとても断固として答えました。”ユダヤ民族滅絶の日が定められた今、途方に暮れて死ぬ時がくることだけを待ってはならない。エステルが王侯の座に座ったのはこの時のためではないのか。自分に与えられた責任と使命を見捨てると神様は他の人を使われるだろう。”エステルがモルデカイに答えました。”あなたは 行って スサ にいるすべての ユダヤ 人を 集め, わたしのために 斷食してください. 三日のあいだ 夜も 昼も 食い 飲みしてはなりません. わたしとわたしの 侍女たちも 同様に 斷食しましょう. そしてわたしは 法律にそむくことですが 王のもとへ 行きます. わたしがもし 死なねばならないのなら, 死にます。”
そうして結局、ユダヤ民族は滅絶を免れて却って、ハマンの一族が滅絶を受けました。万が一、モルデカイとエステルがお祈りだけしていたなら民族滅絶を免れなかったでしょう。お祈りする時にお祈りして行動する時に行動すべきだという歴史的な教訓がここにあります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

私たちが享受する祝福の命令と約束

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

聖書を広げると、最初の章に天地創造の記事があります。神が天地の万物を御言葉で造られました。「神は言われてそのままになった」これが創造の記事の核心です。新約聖書　ヘブル人への手しもべ 1 章 1 節と 2 節を見れば**「神は，むかしは，　預言者たちにより，　いろいろな時に，　いろいろな　方法で，　先祖たちに　語られたがこの　終りの　時には，　御子によって，わたしたちに　語られたのである．　神は　御子を　万物の　相續者と　定め，　また，　御子によって，　もろもろの　世界を　造られた」**と記録されています。このように、聖書に啓示された神は、言われる神様です。神が人生に与えられた言葉は、命令と約束でなっています。神の命令に従う者が享受する幸いの約束になっています「あなたが自分の神、主の言葉に従うと、このすべての祝福があなたに臨んであなたに及びます」としました。今日の本文は、聖書のすべての命令と約束を一点に集めて要約したのと同じ言葉です。神の命令は、基本的に人が神と正しい関係を持つようにするために与えられたものです。神との関係が正しいにされると、神様が与えられる祝福を受けます。
今日は、私たちがどのようにするのが神と正しい関係を持つのか、そしてそれによるの祝福と恵みは何なのかを見てみましょう。

まず、神との関係で正しい関係を有する者が誰なのかを調べてみましょう。本文にこれを 3 つに圧縮していました。

第一は、神を愛する者としました。

神を愛するには、2 つの要素があります。与えるのと受けることです。どんな相手を愛しているなら、その人が与える愛の表現を喜んで受け入れています。私たちに向けた神の愛は、彼のひとり子を送られたことより行うことができなく証明された。したがって、神の独り子イエス・キリストを信じて受け入れることが、神を愛する基本姿勢です。
神を愛する他の一つの要素は、神に向かって愛を表現することです。神を愛する人は、神にたくさん差し上げる心が切実です。神にささげることが大きな楽しみになります。愛になると一緒にいるのを望んでいます。愛になると、愛する対象の考えが心の中心を占めています。神を愛しているので、食べるにも、飲むにも、何をするのか、神の栄光を考えながら離れ立ちのか残すかでも主を喜ばれたいと考えるようになります。愛になると、愛する対象について語って紹介することが楽しいです。そして、人々にイエスに対して言うことになります。これが伝道です。このように、神を愛する者は、神と正しい関係になります。

第二は、神の名前を知っている者としました。

神の名前を知るのは、神が誰であるかを知っていると言うのとおりです。神が誰であるかは神の啓示がなければ知ることができません。
神は言われた **「わたしは，　有って　有る　者 」（出 3:14）、「神はまた　モ ― セ に　言われた，　「イスラエル　の　人々にこう　言いなさい『あなたがたの　先祖の　神，　アブラハムの　神，　イサク　の　神，　ヤコブ　の　神である主が，　わたしをあなたがたのところへつかわされました 』と．　これは　永遠にわたしの名，　これは　世々のわたしの　呼び　名である」（出 3:15）**としました
自らの有る名前は、神の自存性と永遠性と絶対性を示す自己啓示です。アブラハムの神は絶対主権者で明らかに啓示されイサクの神は、予備する神で明らかに啓示されており、ヤコブの神は常に一緒にする神に明らかに啓示されました。新約に来ては、イエス・キリストを通して神が明らかに啓示なりました。そして、イエス・キリストを知る者が神の父を知る者です。神の名前を知っている者、神は誰であるかを知っている者にならなければなりません。そんな時、神様との正しい関係の中にあることになります

第三は、神に求めている者です。

神に祈る人は、神への期待と希望を持って生きていきます。神に祈る人は謙虚な人です。神の助けと祝福を受けずには勝利と幸福の人生を生きていくことができないことを認めるのに祈ります。神に祈る人は、信仰の人です。神の答えを信じる信仰を持ったので、祈ります。神に祈る人は、神と交通し間に合うのを喜ぶ人です。祈りは、神との霊的交わりをするための最良の手段です。神に祈りを楽しんでいる人は、神と正しい関係の中にあるのです

次に、神と正しい関係にある者に与えられる祝福と恵みを知ってみましょう。まず、私はあなたを救われるであろうしました。

汚染に落ち去れた者は、自己自らの力で抜け出せません。抜け出ようとと試みるほど、もより深く落ちて入ります。人が自分では罪と呪いと絶望のどん底から抜け出せません。人間の手段と方法は、さらに状態を悪化させるだけです。神を愛すると、これらのことから救われを受け取ります。神が手を伸ばして救いくださいます。イエス・キリストは、私たちを救われる、神の手です。**「主　イエス　を　信じなさい．　そうしたら，　あなたもあなたの　家族も　救われます」（ 使徒行傳 16:31）**しました。イエス・キリストを信じて、神を愛する者はだれでも罪と呪いと滅亡の下から救われます。

第二に、私はあなたを高くするしました。

人は、元の神から誉れと力を与えました。神の形状と形で造られました。それだけでなく土地を征服し、すべての生き物を支配力を受けました。ところで、人間が罪を犯したゆえにサタンのしもべになりました。これらの人生に神が自分を明らかに啓示していただき神の名前を知ることになりました。神が誰であるかを知ることになりました。イエス・キリストの神を知ることになりました。神は神の名前を知っている者、アダムが失ってしまった地位と権威よりも高めていただきます。神の子どもとされる特権を与えました。聖徒、神の義、王である祭司長、天国の市民という栄光の地位と権威を与えます。したがって、聖徒の皆さんは、神が高めてくれるので得た尊い身分と地位にふさわしい姿勢で生きて行ってください。

第三に、私は答えであろうしました。

求める者に答えられる神様です。イエスご自身が言われ、**「 求めよ，　そうすれば，　あたえられるであろう．　捜せ，　そうすれば，　見いだすであろう．　門をたたけ，　そうすれば，あけてもらえるであろう．　すべて　求める　者は　得，　捜す　者は　見いだし，　門をたたく者はあけてもらえるからである」（ マタイによる福音書 7：7,8）**しました。 エペソ人への手紙 3 章 20 節には、神を指して**「 どうか，わたしたちのうちに　働く力によって，　わたしたちが　求めまた　思うところのいっさいを，はるかに　越えてかなえて　下さることができるかたに，」**としました

第四に、私たちの苦しみ時私はああたと一緒にして私を救われ栄光であろうしました。

世の中には、患難がないところがありません。患難時、神は私たちを離れていませんし、むしろより近くしていただきます。だから聖徒は苦しみ時に孤独ず怖くありません。苦難時に固く握らなければならない約束の言葉があります。**「恐れてはならない，　わたしはあなたと　共にいる．　驚いてはならない，　わたしはあなたの　神である．　わたしはあなたを　强くし，あなたを　助け，　わが　勝利の　右の　手をもって，　あなたをささえる」（イザヤ書 41:10）**
神また約束しての試練から救い出してくださっ見せかけてくださったとしました。これについて、ダビデが賛美するのを**「たといわたしは死の　陰の　谷を　歩むとも，　わざわいを　恐れません．　あなたがわたしと　共におられるからです．　あなたのむちと，　あなたのつえはわたしを　慰めます．　あなたはわたしの　敵の前で，　わたしの　前に　宴を　設け，　わたしのこうべに　油をそそがれる　わたしの　杯はあふれます」（ 詩篇 23：4,5）**しました
今日の御言葉を要約してみましょう。神を愛し、その名前を知っており、彼に求めていることが、神と正しい関係の中で生きることです。神はこのような者を救われる、高くにして、それらに応じてくださいます。苦難時に一緒にして見せかけていただきます。そして最終的な幸せについてこう約束ました。「私は長寿することで私を満足させて私の救いに見せよう」ここで約束された長寿とは永遠の長寿です。天国で永遠に生きるのを言います。そして私の救いに示そうました。神の救いを目撃する日は救いの完成を見る日です。復活して変化した身体を着て、新しいエルサレムで主の栄光を見るようになる日です。

聖徒の皆さんは、日増しに神を愛し、神の名前を知っており、神に求めている深さが加えられるのを願いします。そして、この世で生きている間、神か救われる、高くしく、応答する、苦難時に一緒にして救われる見せかけてくださる祝福の恵みを享受することになります。そして将来救いの完成を見るのは、栄光である体で天国で永遠に満足した生活を生きていく聖徒になりますよう願いします。